

青森連 訪問 議事録

開催場所	ラ・ワッセ	日時：平成28年11月17日（火） 16：30 ～ 18：00	
議事録	作成人	日本商工会議所青年部	日本ネットワーク委員会 委員 長南
	署名人	日本商工会議所青年部	日本ネットワーク委員会 副委員長 今泉

次第

- ① 開会、次第、資料確認 ②出席者紹介（日本 YEG・連合会）③伴会長挨拶・日本 YEG についての説明 ④ 連合会の挨拶・連合会の事業等の説明 ⑤フリーディスカッション ⑥質疑応答 ⑦閉会

■伴会長挨拶

こんにちは。まずは前日行われた会長研修会が終わったばかりでお忙しい中、参加いただきありがとうございます。そして先日の会長研修会にご参加いただきありがとうございました。昨年仲田会長が408という事で各単会に訪問をさせて頂きました。距離を、思いを繋げて行きたいという事で今年は県連に参加させて頂いています。あまり各単会会長さんと話すということは少なく、できるだけ県連に訪問する際は懇親会に参加して宿泊させていただいています。本日も時間の許す限りお話をさせていただいて懇親会にも参加させていただこうと思っています。

伴：まずは個別に事業についてお話をしてもらおうと思います。どの団体と連携をしているのか。どんなところから予算を引っ張ってくるのか、メインの事業はどんなことをやってるのかななどを織り交ぜながらお話ください。

堀越：青森のメンバーは165名ほどで、メインの事業が青森安湯みなと祭りで7月に青森海公園という海に面したところで約10日間の日程で開催しています。10日間で多くの事業が行われていますが、その中のジャパンフェスティバルを行っています。青森はブルースが有名なのでそのブルースキーワードとして町おこしを13年前から先輩たちが企画し現在も続いている状態です。その中での目玉が伝言花火というものがあります。ただの花火を上げるのではなく花火を上げる方が一口一円で、花火を上げる際にいろいろなメッセージを発信するという少し違った仕掛けの花火大会です。また大ビアガーデンを作ってそこでも楽しんでいただけるようにしております。予算は1300万円くらいで、行政や市などから200万円くらいで青森 YEG から200万円くらいで企業協賛で500万円くらい残りが、花火やビアガーデン等の収益金で賄っています。運営していく悩みは年々協賛金が減少してきて運営が難しくなっています。あとは160名以上のメンバーがいるにもかかわらず5～6割のメンバーしかしか動かないのが悩みです。祭りの存続の議論もしながら、どうやって YEG の思いなどをこないメンバーに繋げていくのかも課題です。企業協賛も年々減っていくので、どうすれば少ない予算でも行えるかも検討しています。

前田：弘前は目玉が四つあります。花火は800万が企業協賛でその他にも市からも協賛をいただいています。今後の時期は検討していて今年で10回を迎えます。その他のにはこれから行われるザ・津軽三味線がありまして奏者が300人で行われ朝夕の2回演奏します。JR やしから協力を受けて行っています。その他に合コンリーグがありまして津軽の夜の街を盛り上げる事業もしています。こちらも市から協賛をいただき開催しています。今後も次のステップへ進むために内容の検討も行っています。10月にも津軽の食と産業を盛り上げるお祭りを企画してをります。こちらも長年にわたり継続しています。市役所からも100万円協賛頂いて協力を頂いています。こちらは市から協力したいと依頼があつて

協力を頂いています。

東：五所川原 YEG では、街コンと、高校生ビジネスプランコンテストの事業を行っています。ほとんど補助金を頂いての事業となっています。街コンは表向きの補助金は無くなりますが、地域活性のために補助金がなくてはならない事業なのでうまく運営しながら、会員も１００名近くに増え、現在も流れは出来つつも基本の流れを学習しながら来年度に向け協賛金を集めながら補助金がなくても開催できるように、様々なテクニックや手法を学びながら進めています。近隣の商工会とも情報を交換しながら共に事業をしなくても横の連携は繋げながら今後も情報交換は行っています。

佐藤：十和田は先月行われた B1 グランプリがありますが、こちらは青年部 0B の発案で、バラエティーゼミナールからニュース等で広まり一番をとって地元で開催と一つの区切りはつきました。次は十和田湖に目を向けていまして日本の宝でもあり観光の財産でもあるのですが、近年だいぶ寂しくなっていますので、なんとか昔の活気を取り戻せないかと県の補助を頂いて、マラソンを選択し 11 月の 1 日にプレ大会を行いました。実際のコースは 22 km を想定していますがその中の上り下りがあるコースだけでプレ大会を開催しました。来年 7 月 10 日に十和田湖の公園の 80 周年の記念周年の次の日のメインイベントでマラソン大会を開催します。隣町の十和田湖商工会との共催と十和田市や県をまたいだ小坂町や鹿角市などとも組んで開催に動いております。予算は県や市からいただく予定ですが現在動いてる所なので、金額は出てきておりません。概算では 600 万という線は出していますがまだどのようになるか分からない状態です。B1 で中高生中心にボランティアを募りましたが非常に評判は良かったので、その方たちも巻き込めないかと現在頑張っています。ただ 7 月の頭だと学校行事とも絡むので B1 並みの人数は望めませんが、B1 で培ったボランティア精神やノウハウをマラソン大会に生かしていただければ、非常に良いものになると考えています。また来たいとリピーターに繋がれば十和田湖の活性化にも繋がると期待しております。

福嶋：陸奥では桜祭りを協賛をいただきながらボンボリを 1 本 5000 円の共催を頂いて立てまして、会場を彩る収益事業を行っています。それとはしご酒ラリーがありまして、チケットを買っていただいたお客さんが 2 時間で 5 件回って最後に抽選を行う事業を約 1000 人規模で行っています。抽選の景品は協賛で頂いておりますが、協賛金は頂いておりません。1 月 30 日に弘前と五所川原と合同で合コンリーグが行われます。初めての試みなので色々ご指導いただいて全体で 120 万の予算で協賛を 27 万円頂きながら行います。

泉：黒石の単会の事業は特になく親会のお祭りの手伝いをしています。主に黒潮祭という流し踊りを行っていて、組織自体が個々で行っており高齢化しているのが昨年から来年までは組織に入ってサポートします。民謡などを行いますが、現在は高齢化のため、民謡を唄う若者が少なく渡し手がない状態で、高校生に向けて商品を出して行おうと企画しております。予算は補助金がないので以前行っていたビジネスコンテストで行っていた手法を元に補助金を取ろうと考えています。青森の中で一番小さい市で高齢者と若い方とのコミュニケーションがあまりないのでこの機会につながればと考えています。

柏崎：八戸では、スポーツを生かして地元サッカーチームなどを応援しながら交流を図る事業をしています。それと小学生の母親と企業とタイアップし商品を発掘し販売する事業を助成金をもらいながら行っています。広域ビジネスという八戸の商工会のメンバーたちと駅前の新幹線開業から行っている事業や、広域の方との合コンリーグも一緒にやっています。その他に海と触れ合うカッターレースという事業が海洋少年団と

NP0で行っていてNP0の調整がつかず1年間休止していたものを青年部が声掛けして復活しました。予算は以前は八戸市から助成金が出ていたものの、今年は打ち切りとなるので、地元の新聞社がスポンサーとなってそのから100万円いただきながら、会費と協賛をいただきながら運営しています。横浜や敦賀のYEGや海洋少年団からも協力や交流を深めながら行い来年も敦賀と四日市YEGも参加予定でともに情報を交換し合いながらこちらでも開催をしようとしています。他の県連の単会も出場してもらい津軽対南部のような対決を行ったりもしています。

伴：海洋少年団とはどのような団体ですか？

柏崎：カッターボートという船の操作や手旗信号などを行う団体です。つながりはOBと社会福祉協議会の方との繋がりから知り合いました。

伴：B1で折角できたボランティアの現在の活用方法は？

佐藤：十和田西高の観光課があってそこと一緒に活動をしていてB1の時も地元の観光資源をPRしていたのでマラソン大会でも同じようにPRしてもらえれば今後も続いていくのかと思っています。B1も一度切れるようなのでこのマラソン大会で観光資源のPRも続いていければと考えています。市内人口63000人の内の5500人がボランティアとして参加したので継続したいと思っています。B1の中でも一番小さい市で交通も悪い地域なのに32万人近くの参加者が来ていただき大きな苦情もなく終了できましたので十和田モデルというものもできました。

伴：陸奥のはしご酒ラリーを詳しく教えてください。

福嶋：チケットと交換したラリーカードに行く店が5件書いてありますので、2時間の間に5件散歩をしながら各店で一杯飲んでしたンプをもらい、抽選すると豪華賞品が当たる可能性があるという企画です。

伴：そこに街コンは絡めないのでしょうか？

福嶋：街コンは別で行います。

伴：JCや中工会や商工会との繋がりがありますか？

東：JCはスライドで入ってきたり観光協会や法人会青年部などはほぼ同じメンツが多いです。

伴：県からの補助金はどのような形でもらっていますか？

佐藤：補助金はマラソン大会でもらってくるのではなく十和田湖の観光資源でとの形で県から直接もらっております。しかし秋田県との県またぎもあるので現在は確約をもらっていませんが、青森同様いただければとお願いはしています。

伴：出席率は全国平均で50%位ですが、千葉の柏や長崎の大浦YEGなんかは90%を超えています。%の高いところは声掛けを多くしていますが皆さんのところではどうですか？メンバー数が減ってるところとありますか？

泉：会員数が減ってくというよりは入会数より多く卒業生が多い為、会員数は自然と減ってきています。

東：入会数は多少増えてきているが、参加率やその後のフォローが少ない為出席率が下がってきます。その他にも街が小さい為、二世が多いので、親に理解を求めるフォローがないと会社から出にくくなってしまったりする環境になってしまっているのが現状です。

伴：全国的にも2世が入るケースが多いですが、稀に日立中 YEG の様に8割が自分で起業しているというところもあります。千葉の木更津 YEG は卒業が35で、メンバーの構成が多いのはサラリーマンで会社から行って来いと言われて学んで35で卒業するなど、地域によっての特性があります。

伴：昨年東京に中田会長と専務と私の3人が偶然集まったので柏 YEG の例会にオブザーブ参加させていただきました。例会後の懇親会は80数名近くのほとんどのメンバーが参加するそうです。その例会で15分から20分くらい割いて必ず行っているのが、各メンバーの企業 PR 2～3社を行っています。

全国のメンバーでも勘違いしているメンバーがいて商工会議所青年部に入れば仕事に来るのではなくともに汗を流すことで信頼が生まれ仕事に繋がるのに勘違いしている人には早く教えてあげたほうがいいのでは、どうすれば仕事のやりとりができるのかを気づかせるのがだいじだと思います。やはり頑張ってるメンバーの会社は使いますし、私の単会では例会会場も同じメンバーだけでなく多くのメンバーの施設を使ったりもしています。YEG メンバーの会社だけでほとんどの仕事がこのせるのでそこは上手く使って行っています。JA さんなどとも共にコラボした商品開発をしたりも行っています。そういった意味でも懇親会ってすごく重要だと思います。しかし懇親会もただの宴会で終わらせるのではなく様々な話し合いができる企画も必要だと思います。

堀越：現在青森 YEG としての出席率向上の政策としては、年に2度上期と下期でコンテストを開催しています。例会の出席率と委員会の出席率を合わせてコンテストを行い表彰していますが、なかなかこれで出席率が向上してるかというと厳しいのが現状です。なので伴会長が仰った参加したいと思えるような設け行ったり人間関係を築くことが必要だと思います。

伴：AT に YEG マニュアルというものがあったり様々なものがあるので良い単会の例などはうまくパックたりしてまた、日本 YEG うまく頼ってもらえればと思います。ありがとうございました。